

令和5年度 事業計画について

1. 基本方針

- (1) 系統造成豚「ガッサンエル」の能力を引き継いだランドレース種の繫養・維持をはかるとともに、その基礎豚を活用したLW種・LD種の改良と増殖を推進し、肉豚の良質・安定生産に資する種豚を養豚生産者へ供給してまいります。
- (2) 種豚生産においては、防疫・衛生対策の徹底、ワクチネーション管理と検査の確実な実践を踏まえ、疾病のない健康な種豚づくりを基本とし、飼育管理が容易で健康な種豚の供給を目指します。

2. 重点事項

- (1) 生産基盤・生産体制の充実強化

ア. 優良種豚生産と安定供給

種豚供給はLW種およびLD種の合計で年間1,000頭を目標として計画的な生産体制のもと需要への確に対応してまいります。

イ. 種豚維持と増殖事業

山形県と連携のうえ、交配計画の策定並びに防疫衛生対策へ取り組み、重大疾病の侵入防止による優良種豚の生産と維持にあたります。また、種豚育成・選畜など更新導入を計画的に実践し、能力の高い増殖種豚群を確保いたします。

ウ. 肥育能力調査事業

種豚育成の対象外となる去勢・雌豚は、それらを素豚とする肥育能力調査を実施し、種豚能力や生産性などの考課測定を行います。なお、この調査は防疫衛生や清浄な環境を保つ観点から、肥育用子豚の場外販売を優先し実施します。

エ. 肥育事業の運営強化

当センターのLW種豚を飼養する全農山形子豚生産農場から肥育素豚を導入する平岡肥育農場における、事故率低減・出荷回転率や上物率等の肥育成績の調査分析と肥育技術の改善をはかり、収益性の確保を目指します。

オ. 肥育用子豚の生産・供給事業

種豚生産にかかる副次的資源を最大限活用するため、肥育専業・需要者に対して、強建で発育性の高い子豚の供給・販売につとめ、養豚生産基盤の維持、安定に資する事業を推進します。

カ. 生産性の向上と人材育成

- (ア) 生産管理ソフト「PICS」の活用による繁殖成績データの分析検討を行ない、人工授精による受胎率の向上や画像診断装置を用いた「妊娠鑑定」を徹底し、繁殖成績の更なる向上をはかります。

- (イ) 生産成績にかかる指標値を定め、その達成を目指しながら、飼養管理技術の習熟度の向上をはかり、経営改善を意識する生産活動を推進します。

(ウ) 月例会議などの実績検討と分析を行いながら、OJT（職場内人材育成）の取り組み強化をはかるとともに、職員のキャリア形成の促進並びに技術研鑽や技能習得を目的に、外部研修会等への参加を計画します。

(2) 運営の健全化・施設設備の維持

- ア. 需要動向をはかりながら種豚生産にあたりるとともに、将来的な事業運営・方向性をさだめた経営健全化に向けた検討をすすめます。
- イ. 生産環境の整備と維持に向けた再投資、資産の取得については、その機能と必然性を十分に把握のうえ、作業性・生産性も考慮し計画的にすすめてまいります。
- ウ. 種々の生産性向上をはかりつつ、コスト管理を徹底し、事業収支の改善と財務の健全化につとめます。

(3) 防疫衛生・環境の保全

ア. 防疫衛生対策の維持・強化

- (ア) 清浄な農場環境の維持を基本に、防疫衛生管理マニュアルの徹底をはかり、県指導機関等の協力を得て抗体検査、畜舎環境調査を実施し病原菌の侵入防止につとめます。
- (イ) 特定疾病について、抗体検査を実施し早期発見により防御の徹底、疾病感染の未然防止に万全を期し、衛生レベルの向上につとめます。
- (ウ) 適確な予防ワクチンプログラムを設定し、免疫付与効果を高め、予防効果の向上とあわせ効率的な接種によるコスト低減につとめます。

イ. 環境保全の取り組み

- (ア) 関係法令および地元自治会との「公害防止協定」を遵守し、家畜ふん尿の処理にかかる施設と機械の定期的な点検・保守修理にあたり、常に適正な運転状態を維持し地域の環境保全につとめます。
- (イ) 生産環境の整備・改善につとめ、臭気苦情等へ適切に対応し、環境保全協議会への参画・開催のほか、地域イベントへの協賛を通じ地域住民との連携・融和をはかります。

以 上